

孤立死防止に向けて

「孤立死」「孤独死」とは

一人暮らしの高齢者等が自宅等において亡くなり、死後長期間経過してから発見される事案が、近年、社会的問題となっており、「孤立死」や「孤独死」という表現が多く用いられていますが、明確な定義はありません。札幌市としては、見守り活動によって防止すべきものは、「孤立死」であると考え、取組を進めます。



「孤立死」

周囲との交流がなく、地域から孤立している状況の中で、自宅等で誰にも看取られず一人で亡くなり、死後、長期間放置されていた場合

「孤独死」

家族や地域住民、知人等との交流がある中でも、自宅等で疾病等により一人で亡くなった場合

こちらへ重点化

対策

「孤立化させないための取組」を推進

孤立死を防止するためには2つの取組が重要

孤立化させないための取組

- 1) 市民への孤立死防止に向けた啓発
- 2) 町内会や福祉のまち推進センターが行う見守り、民生委員の巡回相談、老人クラブの友愛訪問
- 3) 仲間・居場所づくりのためのサロン活動
- 4) 保健福祉サービスの利用や地域ボランティアへの参加など

孤立死に至らせないための取組

一人暮らしの方が自宅等で誰にも看取られず亡くなることを完全に防ぐことは難しい。
このため、「孤立化させないための取組」を複合的・重層的に行うことで、万一、亡くなった後も速やかに発見されることが期待できる。

孤立化させないための取組「見守り活動」に関する課題

- ・ 高齢者の増加など社会環境の変化により、町内会や民生委員などによる活動だけでは、十分な見守り活動が難しい
- ・ 支援や他者との関係を望まない高齢者が増えている

解決の視点

- 1) 見守る側の負担を軽減する方法の検討
- 2) 複合的・重層的なアプローチにより見守りのすきまを少なくすること
- 3) 高齢者が受け入れやすいさりげない見守りが重要

民間業者と連携したさりげない見守り・安否確認の仕組づくり

見守り活動の課題を解決し、より効果的に孤立死防止を進めていくためには、地域住民組織などを中心に行われている見守り活動に加え、民間事業者等との連携によるさりげない複合的・重層的な見守り・安否確認のシステムが効果的です。その例として、以下のよう仕組があります。

①【訪問型】の仕組

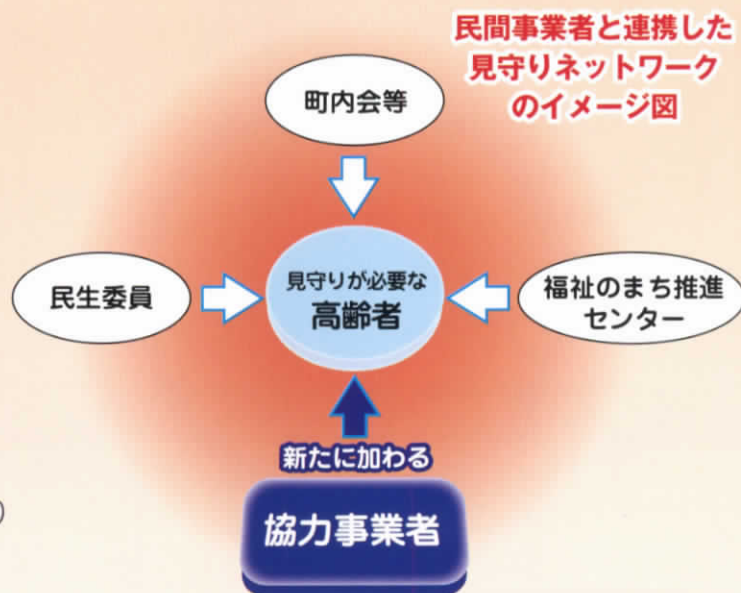
民間の協力事業者が日常の業務を行う中で、訪問宅における見守り・安否確認を行い、異変を発見した場合は、関係機関等に連絡するもの

②【来店型】の仕組

来店した高齢者の様子に異変等を感じた場合、状況に応じて関係機関等を紹介するなどして、認知症の早期発見や生活機能低下の予防・改善につなげていくもの

札幌市では、こうした仕組の有効性等をモデル事業などを通じて検証しながら、取組を進めていきます。

一方、町内会や福祉のまち推進センターなど地域で見守り活動されている関係者においても、地域によるさりげない見守りの目を増やすという観点から、身近にある民間事業者を見守り活動の主体の一つの考え、ネットワーク化を図るなど連携して取り組むことが望まれます。



お問い合わせは

さっぽろ孤立死ゼロ推進センター

電話 **011-708-8686**

〒001-0010

札幌市北区北10条西4丁目1番地SCビル2F

NPO法人シーズネット内

FAX 011-717-6002

Mail koritsushi0@mail.goo.ne.jp

■ 開所時間 月曜～金曜日（但し祝日、年末年始を除く）午前9時30分～午後4時30分

発行 札幌市保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課 札幌市中央区北1条西2丁目 電話 011-211-2976



さっぽろ市
05-E03-12-1420
24-5-387